

月刊

クレヨンハウス

クローヨン

育児をまじめにたのしく!

「子どもにひとこと」

9回目ゲスト

木野内美里さん

「本ものの

モンテッソーリ教育を

学ぶ12ヶ月」

深津高子さん

「子どもの育ちと

農的暮らし」

本間真二郎さん ほか

「特集」

冬を乗り切る子どもの食養生

将来を決める

幼少期の食べ方

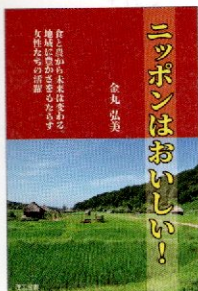
2024 12

990円(税込)



Book review

地域の豊かさを
農から拓く女性たち



『ニッポンはおいしい!』
金丸弘美／著
理工図書株式会社／刊 2,090円

オーガニック朝市を開催する、食体験が豊かな宿を紹介する、国産ウイスキーを普及する……地域の農業・食を愛し、盛り上げようと邁進する女性たちの熱意と仕事を紹介される。前例がなかったり、試行錯誤をくり返したりと、道のりは平坦ではないが、みなさんなんのその。

女性ははまだ周縁に置かれがち。否応なく鍛えられたチャレンジの胆力を、きびしいけれど「おいしい」農の仕事で発揮する姿が頼もしい!

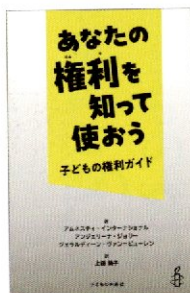
行きしぶりと不登校に
悩むすべてのひとへ



『せんさいなぼくは
小学生になれない?』
沢木ラクダ／著
小学館／刊 1,760円

ある家族の、入学式にはじまった子どもの行きしぶりから不登校までの6週間にわたる葛藤の記録。付き添い登校で「うちの子ってもしかしてHSC(Highly sensitive child)?」と気づくと、一斉教育が抱える理不尽な「正しさ」の強要が浮き彫りに。「ぼくは小学生になれない?」と子どもに言わせてしまう「学校」のあり方が問われる。親子で落ち着く居場所を見つけていく過程からは、学びの場の未来を、考えずにはいられない。

子どもの権利が
侵害される世界で



『あなたの権利を知って使おう子どもの権利ガイド』
アムネスティ・インターナショナル、
アンジェリーナ・ジョリー、
ジェラルディン・ヴァン・ビューレン／文
上田勢子／訳 子どもの未来社／刊 1,980円

「もし、すべての国の政府が約束を守り、すべての大人が子どもの権利を尊重するならば、この本は必要ありません」。序文で俳優のアンジェリーナ・ジョリーがこう記している。つまり「国連子どもの権利条約」が守られていないのが現実で、本書は世界の子どもたちに権利とその「使い方」を伝え、エンパワメントを試みる。きびしい状況下で行動を起こした子どもたちのまなざしが、ところで大人は? と問いかける。

違和感・不快感
10秒でラクになろう!



『疲れた日でもできる
10秒姿勢リセット』
吉田直輔／著
時事通信出版局／刊 1,650円

疲れたときは何もできない、したくない。本を見ながらエクササイズだなんて、とてもじゃないが、そこへ本書。字もイラストも大きめで、まずはかなり読みやすい。

姿勢を整えると、見た目が変わるだけでなく、からだの違和感がなくなり、快適に動けるようになるという。セルフチェックでわかるストレートネック、巻き肩、反り腰……が、そもそも疲れの原因かも。10秒ならば、試してみますか!

「許される体罰」
などない



『みんなで考えよう! 体罰のこと』
神原文子、田村公江、中村哲也／編著
解放出版社／刊 2,750円

学校で、スポーツの場で、家庭で、子どもは体罰を受けている。道で大人が大人を、上司が部下を、夫が妻をたたいたら事件だが、子どもに対しては「体罰容認意識」が根深いのはなぜか。多角的に考えられる一冊。「体罰の本質とは、体罰を通じた上下関係の形成と承認ということですよ」との一文にハッとする。体罰を法律で禁止する国のひとつスウェーデンでは、20年で医療費と犯罪が減少。社会で向き合うべき問題だ。

料理で子どもに
「台所力」を!



『10歳までに身につけたい 子どもに
一生役に立つ台所と料理のこと』
坂本佳奈／著
青春出版社／刊 1,595円

子どものために、ここまで「料理」を紐解いた本にはなかなか出会えない。買いつくから保管、調理、食べること、片付けまで、料理は「流れ」であり、さまざまな知恵と技術の集合。「台所力」は「生きる力」だとあらためて気づかされる。一方で、子どもには強制せず、道具と環境、安全を用意したら放っておいてと著者の坂本佳奈さん。「台所育児」に尽力した母・廣子さんとのおいしいエピソードをお手本に。